

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		3/2 (2/23との比較)	3/2 (2/23との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	2.20% (▲0.05)	82.09円 (▲2.99%)	+2.9% 2017年4Q	1.25%	住宅ローン審査基準厳格化を前に、住宅購入の動きが活発化したものの、在庫の積み増しペースが減速したため、10-12月期のGDP（国内総生産）は市場予想を下回る結果。カナダドルは対円で下落。国債利回りは低下。	政策金利の発表などを予定。市場では据え置きを予想。米国の保護主義的な通商政策で、NAFTA（北米自由貿易協定）が進展するか否かに注目が集まる中、債券・為替市場は神経質な展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	8.65% (▲0.16)	32.51円 (▲1.49%)	+2.1% 2017年4Q	6.75%	10-12月期のGDPは、景気の拡大継続が確認できたものの、市場予想を下回る結果。これに加えて、米国でタカ派と捉えられる発言があったことから、レアルは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産などの発表を予定。市場では前年比で前回値を上回ると予想。年金改革法案の成立が総選挙後となり、同国の格下げリスクが高まっていることなどから、レアルの上値は重い展開を予想。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.49% (▲0.01)	5.62円 (▲2.50%)	+1.5% 2017年4Q	7.50%	失業率は前回値と同程度の結果。NAFTA再交渉第7回が開催される中、米国の保護主義的な通商政策を受けて、NAFTA再交渉が難航するとの懸念から、ペソは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	CPIなどの発表を予定。市場では、前回値を下回るものの、引き続き高水準の結果を予想。CPIの鈍化が続けば、利下げ期待も徐々に高まると想定。債券・為替市場はNAFTA再交渉の進展に左右される展開を予想。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		3/2 (2/23との比較) 今後の見通し (※4)	3/2 (2/23との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.73% (▲0.11)	82.00円 (▲2.18%)	+2.8% 2017年3Q	1.50%	民間信用部門は市場予想を下回る結果。FRB（米連邦準備制度理事会）議長のタカ派的な発言や、トランプ政権の鉄鋼・アルミニウムの輸入関税引き上げの発表などを受け、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。	小売売上高や10-12月期のGDP、中銀の政策金利などの発表を予定。足元で発表された経済指標が低調な結果が多い中、利上げ期待が大きく高まるような展開は見込みにくく、政策金利の据え置きを予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.92% (▲0.04)	76.53円 (▲1.95%)	+2.7% 2017年3Q	1.75%	貿易収支は赤字に転換するも、企業景況感はマイナス幅を縮小し、交易条件指数も酪農品価格の持ち直しもあり改善。米国の保護主義的な動きに対する懸念から、ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは低下。	住宅価格や製造業活動関連の指標などの発表を予定。インフレ率が安定しているものの、早期に利上げが実施されるとの見方が広がるためには、景気が強く上向き兆しがみられる必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.94% (+0.05)	13.60円 (▲0.58%)	+1.4% 2017年4Q	0.50%	中銀は目標とするインフレ率の水準を2.5%から2.0%へ引き下げることを発表。従来よりも低いインフレ率でも利上げが実施されるとの見方もあり、国債利回りは上昇。ノルウェークローネは対円で下落。	先週発表された小売売上高は軟調となったものの、製造業PMIは高水準を維持。発表される中銀による企業調査で売上高の見通しが上向けば、早期利上げ観測が一段と高まり通貨高が進む公算。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		3/2 (2/23との比較) 今後の見通し (※4)	3/2 (2/23との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	7.54% (+0.12)	8.87円 (▲4.08%)	+0.8% 2017年3Q	6.75%	製造業PMIは50を超え、景気回復の兆候が見られる結果。内閣改造が実施され、ネネ元財務相などが返り咲いたことが好感されたものの、貿易赤字が拡大されたことが嫌気され、ランドは対円で下落。国債利回りは上昇。	10-12月期GDPの発表を予定。来年度の予算や内閣改造などの注目イベントを終え、市場の期待感が一巡する中、目先の材料に乏しいことなどから、債券・為替市場は上値の重い展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい	 金利低下	 景気安定	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.01% (+0.16)	0.77円 (▲1.67%)	+5.2% 2017年4Q	4.25%	製造業PMIは前月から改善。CPIおよびコアCPIの前年比伸び率も鈍化。株式市場が世界的に下落し、リスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、ルピアは対円で下落。国債利回りは上昇。	消費者信頼感指数や外貨準備高の発表を予定。経済統計が底堅く推移すると想定するも、足元の投資家のリスク回避的な動きから、同国の債券・為替市場は売り圧力が高まりやすい地合いを予想。
	Baa3	 金利低下	 金利横ばい	 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	7.57% (+0.04)	1.62円 (▲1.73%)	+7.2% 2017年4Q	6.00%	政府支出のほか、製造部門とサービス部門がそろって拡大したため、10-12月期のGDPは市場予想を上回る結果。これを受けて、国債利回りは上昇。ルピーは対円で下落。	発表されたGDPが市場予想を上回ったほか、GST（物品・サービス税）などの混乱は徐々に収束してきた模様で、利上げ観測も出てきたことから、ルピーは底堅く推移すると予想。
	Baa2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		

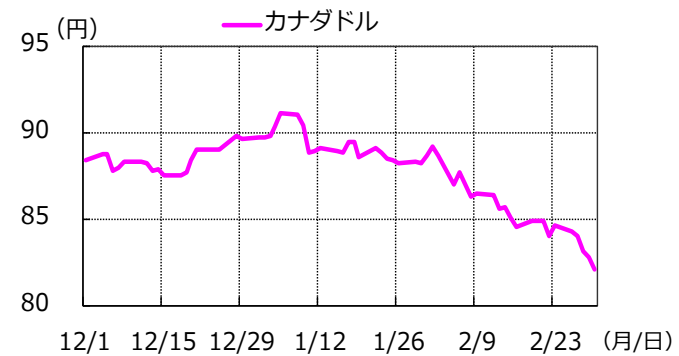
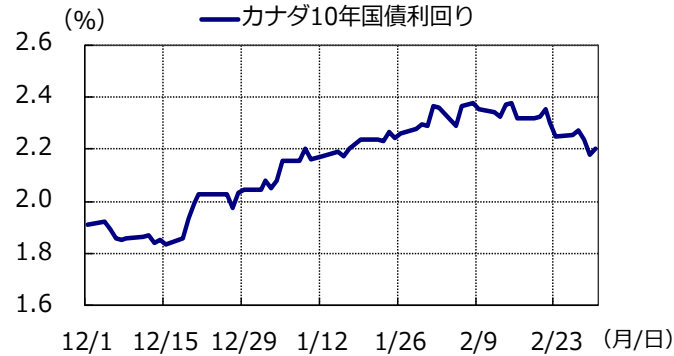
（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

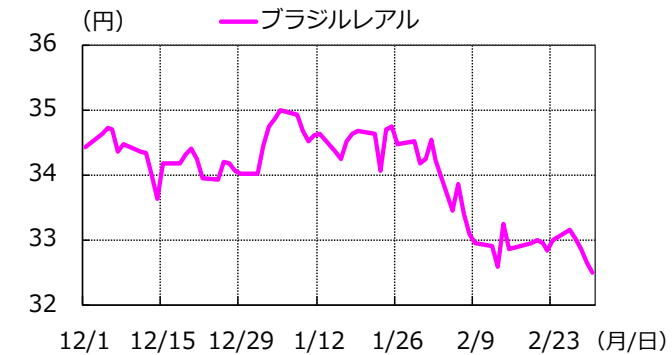
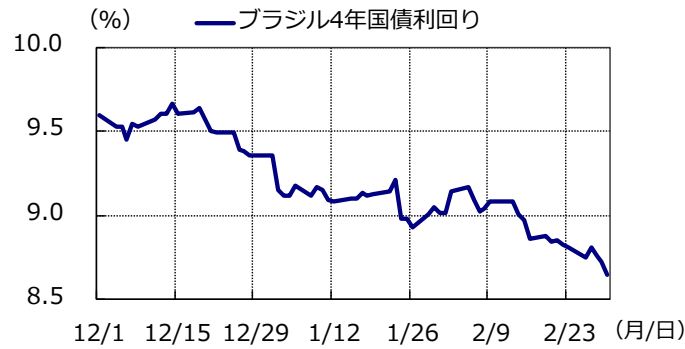
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/12/1～2018/3/2

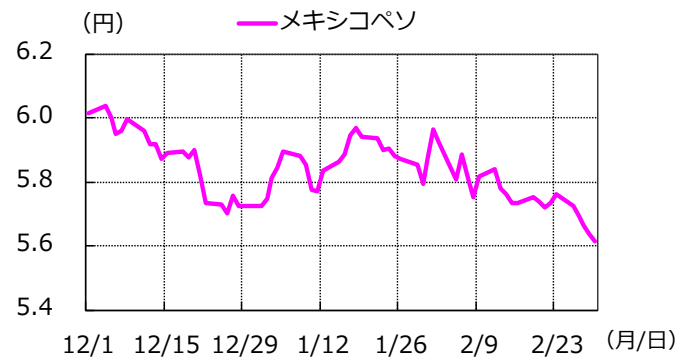
カナダ



ブラジル



メキシコ

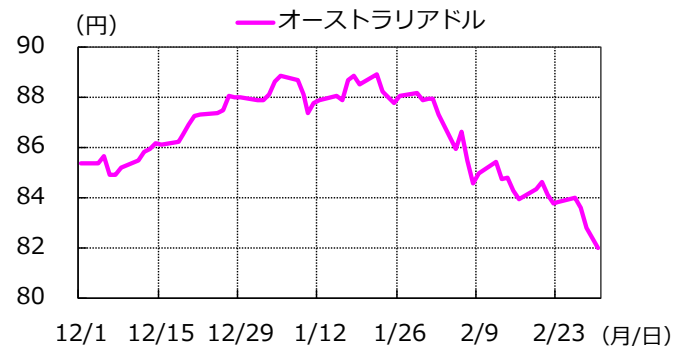
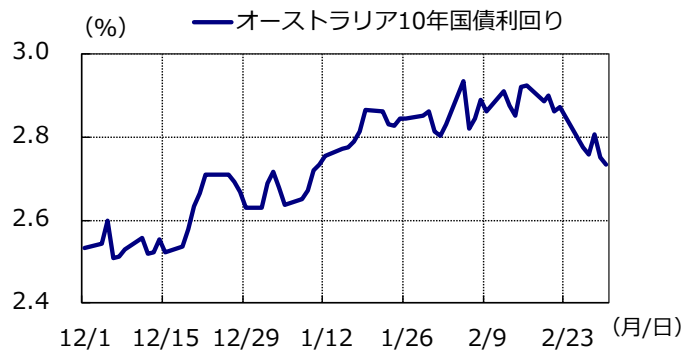


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

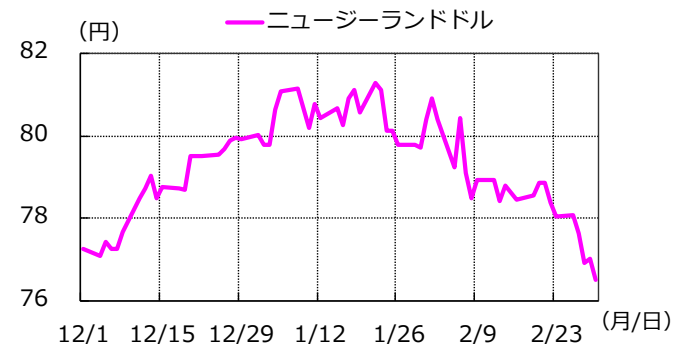
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/12/1～2018/3/2

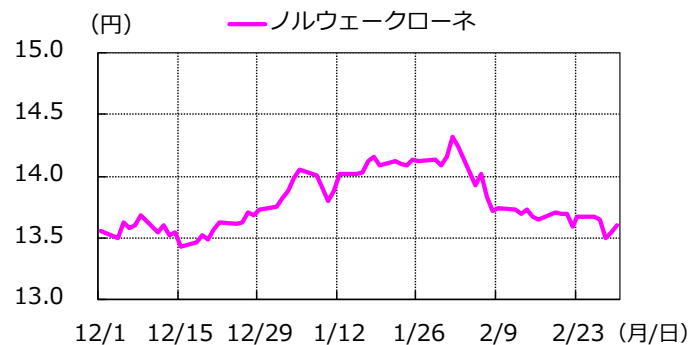
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

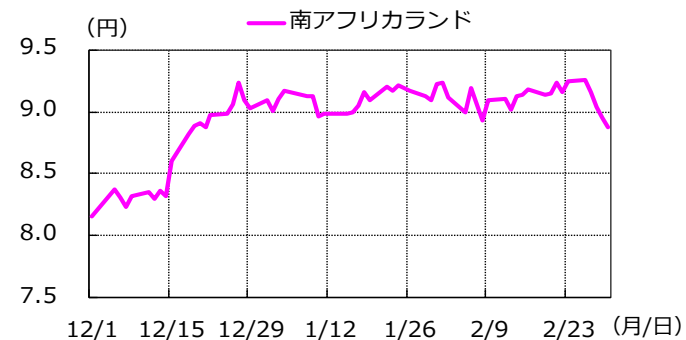


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

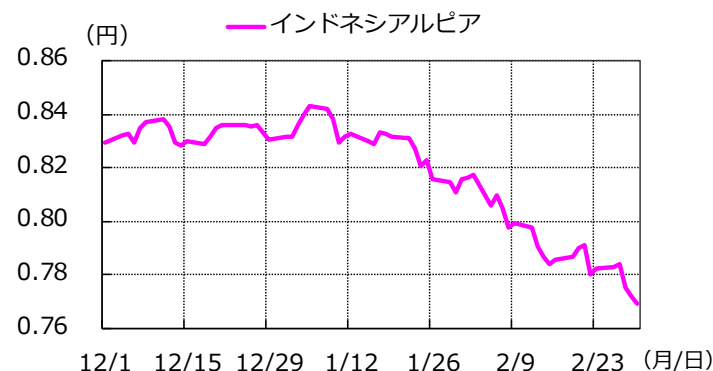
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/12/1～2018/3/2

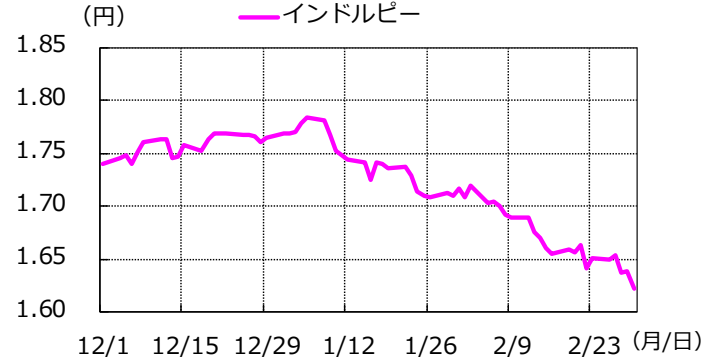
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。